

# 花火の願い

夜の暗闇の空をぱっと照らす花、それは花火。夏といえば花火という人も少なくはないだろう。花火は夏の暑さも吹き飛ばしてくれる、僕も大好きだ。そんな花火のことをどれくらい理解しているのだろうか。さあ花火のようにドカンと魅力を伝えよう。



## 天候による美しさ

曇り空を見てあなたは思うだろうか。

曇り空だと見れない 晴れだときれいに見える。

晴れ空だとどうだろうか。きれいじゃないと思え

曇り空は天候に左右される

ものなの

## 様々な工夫

花火は丸いものだと思う人もいるだろう。しかし丸いだけではなく色々な工夫がされている。この右の花火だって丸ではない今では、人気のキャラクターや色々なところに散らばる花火などがある。昔は、○△◎が普通だった。時代が変わっていくに連れて多くの花火職人の工夫によって色々な花火がある。だから花火は人気に違いない。



## どの世代からも愛される

花火は昔から、色々な世代に愛されている。今も、色々なところで花火は大勢の心を多彩な色に染めてきた。悲しい時でもつらいときでも花火はいつでもぱっと明るい気持ちにさせてくれる。

花火は昔から多くの人々の力で受け継がれている。友達と見に行くもよし家族や親戚色々な人と、見に行けば夏一番に、楽しむこと間違いなし。花火は絶対に裏切らない。だから花火は日本の誇りなのだ。

冨木一馬 花火の絵本

<https://hanabi.walkerplus.com/topics/article/1084540/>

[https://skywardplus.jal.co.jp/plus\\_one/other/fireworks\\_festival/](https://skywardplus.jal.co.jp/plus_one/other/fireworks_festival/)

<https://eneco.blog.ss-blog.jp/2005-07-05>

## 八面玲瓏な温泉

私は温泉卵をよく食べている。温泉卵は卵の調理法の中で最も栄養を吸収する食べ方で、美味しいメリットに加え健康にもなるのだ。こんなに実に素晴らしい食べ物はあるだろうか。そしてこれは日本独自の調理法だ。私はよくご飯にのせて食べたり、うどんに乗せて食べたりしている。ところで温泉卵という名前がついた理由を知っているだろうか。これは「心から温まる」という言葉と先に黄身が固まるという意味が似ているため温泉卵という名前がついたそう。もしかしたら自分の好きなことにも秘密があるのかもしれない...

温泉に入ると...

「心から温まる」という言葉を聞いたことがないだろうか。そう、温泉だ。ただのお湯に浸かっているはずなのに「心から温まる」という効果が出ている。他の効果もないか見てみよう。『<https://www.spa.or.jp/onsen/509/>温泉の効果』では「疲労を回復させる『休養』、健康を保持し病気を予防する『保養』、病気の治療をする『療養』の3つに分類することができ、これを温泉の三養と呼んでいます。」と書かれている。さらに、「温泉の成分が皮膚から吸収され、血液に入って全身にいきわたり、皮膚、皮下組織、筋肉などの細胞二作用すると同時に神経にも作用するものです。」と書かれている。そして入る回数が増えるたびに健康になったり、ぐっすり眠れたり健康を感じられるようになったりするのだ。



数多い温泉

ところで、温泉にはいろいろな種類がある。その中で主な種類を1つ紹介する。1つ目は「単純温泉」という種類だ。『

<https://www.spa.or.jp/onsen/501/>温泉の泉質について』では、「特徴は肌触りが柔らかく、癬がなく肌への刺激が少ないのが特徴」と書かれている。これは、日光移動教室の「尾瀬岩鞍リゾートホテル」と同じ泉質だ。確かに言われてみると肌を触ったときすべすべとした感触が感じられた。さらにリラックスできる効果や、病気を回復させる効果、疲労回復効果がある。さらに、この温泉は飲用することで、さらに体に良い効果があるのだ。入ることで健康にもなる、飲むことでも健康になるなんて本当にすごい温泉だということがわかる。温泉の数は数え切れないほどあるので、気になった人はぜひ行ってほしい。



温泉は古くから使われていてローマ時代でも使われていた。しかし世界を見ても温泉はあるが、数が多いというのと同様に様々な効果があるという点を見ると、世界を見渡しても他にない。さらに、日本は約1300年前にすでに使われていたという歴史が残っている。つまり今からさかのぼると約723年、奈良時代にまで遡ることになる。そして、約3000年前にできた温泉が今でも営業しているのだという。

その点を見ると日本は温泉大国だということがわかる。そして多くの人を気持ちよくリラックスさせてきた。そして今もなお歴史ある温泉をつくり上げている。だから温泉は日本の伝統の宝なのだ。

参考 <https://www.spa.or.jp/onsen/501/> <https://www.spa.or.jp/onsen/509>  
<https://www.oze-iwakura.co.jp/hotel/> <http://okinawa.kilo.jp/?p=9978>

# 昔から伝わってきたわんこそば

食べた数で競う、その名はわんこそば。みな、1度は聞いたことがあるだろう。古くから伝わってきただけあって最近ではわんこそばの、専門店があるくらいだ。では、そのわんこそばについてこれから話そう。

## 多く食べるために必須なもの...「薬味」。

わんこそばの始まりは、308年ほど前からあるという。その中で、『薬味』というのは聞いたことがあるだろうか。それは、味変をするために必須な「刺身」「漬物」など、様々なものがある。それがあることによって味に飽きないで食べれる素晴らしいものだ。

わんこそばを食べるときは、この素晴らしいアイテムを食べる人が多いと思う。それは、そばを多く食べれば元が取れる。また、楽しいというマイナスなことが思い当たる限り1つもないからだ。ではこの、魅力的な『薬味』についてはもう終わりだが次も興味を引く話題だと思う。興味を引く話題とはなんだろう。では、次の話題を見てごらん。



## みんなの興味を引く「わんこそば全日本大会」

『わんこそば全日本大会』というものを初めて聞く人も多いと思う。なぜなら、陸上や水泳などスポーツ類はテレビでもよく取り上げられている。けど、『わんこそば』はあまりテレビで取り上げられていない。でも、それが悪い訳では無い。これからだと思うと私は考える...  
危ない、危ない話題が『テレビにのるわんこそば』になってしまうところだった。

では、切り替えて『わんこそば全日本大会』について少し話をしよう。ここでは、制限時間内にわんこそばをどれだけ食べれるかを競うものである。歴代最高記録は5分間で、258杯。こんなに食べれるのはすごいと思う。



## くるくるわんこ

くるくるわんこは、くるくる蕎麦がまわっていて自分で取るシステムのことを言っている。それは、専門店でも、色々なところがあるけれど一番私の中では、聞き覚えがある。そこには、1つめの根拠に出てきた『薬味』もあるし、お椀の中の当たり外れがある。こんなに面白いのは世界を見渡しても他にはない。

このようなことから、古くから伝わってきたわんこそばにはたくさんの魅力があって、飽きずに楽しめる。つまり人類の楽しみなのだ。

参考 日本の伝統文化①北海道・東北 国土者編集部/編

## 『たくさんの 歴史生まれる 俳句たち』

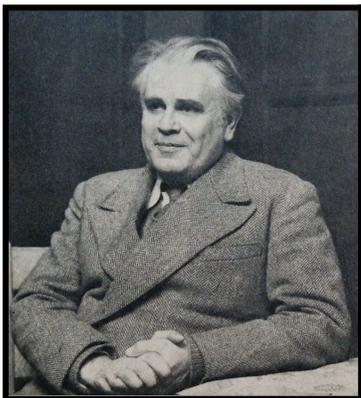
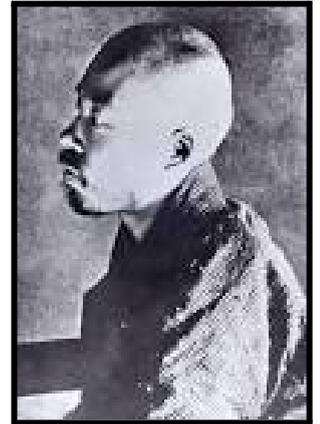
みんなが愉快地にリズム感溢れる、  
その名も『俳句』俳句は日本から生まれた文化で日本で人気な文化の一つだ。

### 俳句の指名

『俳句』はこれまでたくさんの人に愛されている。想像力を働かせて自分で考えたり人と考えたりするのという楽しさがあるからだ。そして簡単で作りやすいという理由もあるだろう。

### 俳句のレトロさ

そんなみんなも知っている『俳句』にも歴史がある。  
まず『俳句』が初めて作られたのは明治時代、初めて作ったとされる人物は右の写真の「正岡子規」正岡子規は明治時代に五、七、五を『俳句』と名乗ることを決めた。その正岡子規の有名な『俳句』がこれだ「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」この『俳句』はほとんどの人が知ってる『俳句』だがこの有名な『俳句』を作ったのが『俳句』を作った人なのだ。  
そして右下の絵に載っている人は『俳句』で活躍した人物で『松尾芭蕉』松尾芭蕉は数々の人気な『俳句』を作った俳人だ。松尾芭蕉の『俳句』の作品で人気なのは「夏草や兵どもが夢の」など。その松尾芭蕉は『俳句』をたくさん見つけるために日本中を旅した。『俳句』を作るために日本中を旅した行動力とそれだけ『俳句』が好きな心は素晴らしい。



そして『俳句』を世界に広めた人物がいる。その人物は日本人ではなく外国人の「レジナルド・ブライス」

この左の写真に写っているのはレジナルド・ブライス。レジナルド・ブライスが外国人でも『俳句』を数々作ったおかげで世界でも有名になった。このようなことが起きていることがわかるとより世界で『俳句』が人気になっていることがわかる。



### 俳句と世界の関わり

外国でも『俳句』は人気らしい、その理由は簡単で作りやすいし、何事にも左右されない自由さがあるからだ。短い十七字から生み出されるリズム感が生まれることも人気だ。

このように『俳句』は数々の作品が生まれ人気になっている。  
『俳句』はたくさんの時代でたくさんの人を楽しませてきた。

それだから『俳句』は日本の文化の誇りなのだ。

たくさんの 歴史生まれる 俳句たち ころつなげる 伝統文化

参考URL <https://haikustock.com/edit/rekisi.html>  
[https://www.library.pref.iwate.jp/ex/2021\\_kajin-haijin/main/01\\_tanka-haiku.html](https://www.library.pref.iwate.jp/ex/2021_kajin-haijin/main/01_tanka-haiku.html)

心癒やされる和食

皆さんが当たり前で食べている『和食』。私も物心ついた時から食べていたものだ。今は世界中の人にも注目され、和食のために日本へ訪れる人もいる。その温かみのある『和食』の凄さを知っているだろうか？そんな皆さんに『和食』の温かみを説明していこう。

## いつもの当たり前



左の画像を見てごらん。いつも食べてる『和食』はご飯、汁物、菜、副菜（副副菜）、漬物があるだう。和食には基本がある。その基本を「一汁三菜」という。一汁三菜の基本を守って食べると、食のバランスがとれ、疲れた体を温かいご飯で優しく包んでくれる。こんな温かい気持ちになれるものは和食だけだ。

## 懐かしの郷土料理

和食は、地方によって味や形などが変わっていく。例えば、地方によって言葉づかいが変わるようなことだろう。その中で秋田県発祥のきりたんぼ鍋について説明しよう。由来は諸説あるが、木こりが山作業の時に残り飯を棒に巻き付けて味噌をつけたきりたんぼを鍋にいれたのが始まりとも言われている。秋田県出身の人たちは、子供のころから食べている懐かしの味を食べることで体も心も温まるだろう。

## 家族の集まり

皆さんは大みそかやお正月、端午の節句、上巳の節句、節分などに家族と集まり、食べたり話したり楽しい時間を過ごすだろう。和食には昔から行事をイメージした食べ物を食べる習慣がある。大みそかには年越しそば、お正月にはおせちなどを食べる家が多い。おせちは色々な種類の鮮やかなものを食べれるので、華やかな気持ちになれるだろう。和食は家族と集まり楽しむ環境を作ってくれるのだ。

いつも食べてる『和食』は、バランスがとれるように考えられていて、家族みんなで集まって楽しく食べられる。だから『和食』は心温まるものなのだ。

参考 ・美味しい和食の話和食画像 ・AJINOMOTO PARKきりたんぼ鍋画像  
・山王食品 きりたんぼ鍋由来 ・「和食のえほん」監修江原絢子

